教材・教具名　ミラーボックス	領域・教科【 書写（毛筆） 】

構造は、廃棄処分となった机の天板を四角にくりぬき透明アクリル板を置き、下部の箱に４５度の角度で鏡を取り付け、鏡の前に８ミリビデオカメラを置くようにしたものである。

透明アクリル板の上に半紙を置き、毛筆で漢字を書くと、半紙の裏面から見た逆像が鏡の反射によって正像となってテレビに映し出される。

◇指導のねらい

毛筆で漢字を書く時に、漢字の筆順を意識させるために、また、毛筆で書くことに抵抗感を少なくさせるために考案した。

◇基本の使い方

新しく学習する漢字の筆順をテレビのモニター画面を見ることによって知ることができる。

生徒は、この教具を使って漢字を書くことにより、クラスの友達から喝采を受けて字を書く意欲につながる。

墨の濃淡を工夫することにより、筆遣いの理解につながる。

◇指導の評価

テレビのモニター画面を見て、筆順を確かめることができた。生徒は、点画が独りでに伸びたりするので「お化けが書いているみたいだ。」と言いながら楽しんでいた。

「龍太郎くんの龍の字の筆順が分からない。」という意見が出たので、龍太郎くんは自信満々に「こう書くのです。」と、この教具を使って楽しく字を書くことができた。